

やさしさを届けた先から

2025 年度公益財団法人ホース未来福祉財団様の助成をいただきました、一般社団法人つながりラボ世田谷より、助成元の皆さまに心より感謝を申し上げ、一年間の活動報告をさせていただきます。

私共の法人は世田谷区内在住の知的障害者の家族の会である『世田谷区手をつなぐ親の会』（任意団体）の有志で、知的障害者の親なき後の課題をなんとか対応したいという願いで立ち上げた法人です。障害のあるなしに関わらず、誰もが安心して住み慣れた地域でその人らしい暮らしを尊重される時代となりました。

とは言え、知的障害者が安心して地域生活を続けるためには、地域の人の障害理解と本人の意思を尊重したゆるやかな見守りがより一層大切になった時代ともいえます。

私共は地域で生きる知的障害者の見守りの仕組み作り、MAPS 活動に取り組んでいます。みまもり・あんしん・ばあとなあずの頭文字を集めて MAPS です。具体的には世田谷区立保健医療福祉総合プラザ内のご提供いただき、障害のある人・家族・弁護士・区内障害者施設職員と地域の方々とみんなで一緒に、会話やレクリエーションを楽しむ場である MAPS CAFE を年3回開催しています。

判断力に課題のある知的障害者にとって、障害理解のある弁護士さんとの交流の機会は貴重です。将来的に（親なき後に）重要な契約（相続、不動産の売却・賃貸契約、入院、施設入所等）が必要となったときには弁護士さんが大きな支えとなります。

自らの不調をうまく訴えることが難しい障害特性の方には、周りの方の気づきも地域生活には必要です。

昨年度は助成をいただき、弁護士の方々に声かけをし、施設の職員の方々にも積極的に関わっていただくことができました。参加者も増え、クリスマス会、本人と地域の方のコラボによるミニコンサート等の企画で、毎回楽しく過ごすことができました。私共は今後も知的障害者の地域の見守りの輪を広げる活動を続けてまいります。ありがとうございました。

（代表理事 堅山順子）



財団および寄付者の皆様の温かいご支援に、心より感謝申し上げます。

皆様のおかげで、日々の学業に加え、現在最も力を入れている「点訳サークル」の運営に専念する貴重な時間をいただくことができております。

私は、祖母の点字器をきっかけに点字に携わるようになりました。現在は、音訳や手話なども含めた「情報のアクセシビリティ」に強い関心を持っています。

将来は、大学院で社会学を軸にこのテーマをさらに深く研究するか、あるいは出版業界などの情報を扱う市場で誰もが等しく言葉に触れられる仕組み作りに携わりたいと考えています。

形は模索中ですが、いただいたご恩を社会へ還元できるよう、これからも邁進してまいります。

（東洋大学法学部3年 永田睦月）

ANNUAL
REPORT
2025

やさしさの
1年だより

ACTIVITIES



助成事業

2025年度もたくさんの団体・個人様からの申請がありました。選考の結果、2025年度として合計5704.31千円を以下の19団体に助成を行いました。

〈助成金 決定一覧〉

地域障害児教育研究会 DAKKO テラセル つながりラボ世田谷
環境教育ネットワーク みのり ワーキングバリアフリー Knocku
大田区支援ネットワーク AYA ボルケ イルミ☆ミュージック
いのちを守るat プロジェクトJAPAN 日本水治運動療法協会
前庭水管拡大症・ベンドレッド症候群の会 みかんぐみ たしざん
ひびき (順不同)



奨学金支給事業

国内外の学生からたくさんのお問い合わせもいただきました。選考の結果、5名に奨学生証を授与いたしました。

〈受給者の構成〉

国内障害学生 4名
留学生 1名



講演／研修事業

第3回ホース未来交流会

2026年2月23日に大田区西蒲田のプラザ・アペアで行われた交流会には、助成団体先の皆様を中心とした総勢42名様ご出席くださいました。講師に弊財団選考委員でもあります神作綾子様をお迎えし、「多様性を力に変える共生社会の実現に向けて」と題し講演をしていただきました。また、今回初めて奨学生(障害学生)にも参加していただき、おなじ障害を抱えながら社会で活躍している方、障害者福祉にかかわっている諸先輩方との交流を図っていただきました。



調査研究事業

手話の歴史を学ぶ

言語聴覚士菅原仙子氏の講義を受講しレポート作成

助成先対象事業の実施確認

今年度助成支援先2団体について実施状況確認の為見学・参加

みかん組

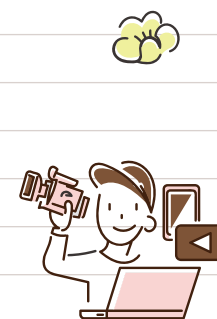
障害児(者)と一般市民が共に楽しめる「インクルーシブコンサート」の開催(令和7年11月)

つながりラボ世田谷

親亡き後の知的障害者の権利擁護・地域生活見守りの仕組みづくり活動「MAPS Cafe」の開催(令和8年3月)

◎寄付金について

皆様の温かいご支援から沢山の勇気と幸せな瞬間が生まれています。本当にありがとうございました。



「仲間の語りに背中を押され、発表があることで最後まで作り切る力となった」

当事者が当事者の経験を短編映像作品として制作(精神障害当事者会ボルケ)

「同じ境遇の家族と出会え、励まされた」

希少疾患前庭水管拡大症・ベンドレッド症候群家族会発足(ZENPE)



「家族と同じ食事、同じ時間を過ごせたことが嬉しい」

食事に配慮が必要な子供がいる家庭でも同じ食事[ペースト食・刻み食]を楽しめる機会を提供(AYA)

